


**講師：小峰博生** プロフィール

1995 渡米環境科学を学ぶ。2007年クジャラートアーユルヴェーダ大学医師過程卒業。アーユルヴェーダ医師。セミナーやスクールにてアーユルヴェーダの普及と教育に努める。ハタイクリニック勤務。(社)日本アーユルヴェーダ学会評議員

**演 題**
**「パンチャマハーブータ(五大元素)の考察：太古の科学者達は何を思うか」**
**講師 コメント**

**こんな人にお話を聞いてもらえたらと思います。**

- ・ アーユルヴェーダはスピリチュアルな医療でそこが素晴らしいと思っている方
- ・ ヨーガなどの精神性とともアーユルヴェーダに魅力を感じた方

これら、精神的な事はとても素晴らしい事です。

しかし、インドの精神性へのフォーカスが偏る事で、インドの大なる財産、インドで太古より育まれてきた自然科学(ここでは存在や生命の尽きない興味と探求心!)が蔑ろにされてしまっているきらいがあります。特にインド文化の精神性ばかりが大きく取り沙汰されてしまっている昨今では。

インド政府より送られる賞の1つ、パドマブーシヤンを1998年に受賞したデービープラサードチャトウパーデヤヤー氏、古代からのインドの物質的の科学史を研究しつつも、このような事を申しております。

「インドにも論理学を根底に打ち立てられた自然科学が会ったにも関わらず、インドといれば宗教や神秘主義の研究ばかりになり、自然科学は西洋の特権となった。控えめに言ってもそれは非常に大きな不幸である。グローバルな視点で「科学」=「西洋」という偏見が育ってしまった。」

氏が言うにはインドの科学の根底は「パンチャマハーブータ」5大元素となっており、その太古の科学の集大成がチャラカサンヒターであり、スシュルタサンヒターである。

**そのような訳でこんな事をやります！！**

古代インド科学の根底である5大元素。この太古の化学が医療に、生物学に、どのように関与しているのか……

そんな五大元素に実際に触れて・味わって…… ザラザラしたものがどうして、生き物に有益ではないのだろう…… シットリしたものがどうして生き物に有益なんだろう……

五大元素的な考察を実際に味覚や触覚で経験しながら、太古の医師/科学者達は何を思ったのかに思いを馳せてみる会です。

～～実際に粉をさわりながら、オイルをさわりながら、レモンとか、ゴーヤを噛んだり、味わったり、しながら、太古の医師達がどうやって、感覚を通して医療を作り上げたのか～～

**開催日時：2017年9月9日(第2土) 受付開始 18:00 開始時間 18:30～20:30**

**参加費：(社)日本アーユルヴェーダ学会 会員 1000円 一般 2000円 定員 30名**

**参加申し込み(必須)：ysuzuki0127@polka.ocn.ne.jp 世話人 鈴木八重子**

**会場：中央区人形町区民館 和室 5号6号室**

中央区日本橋人形町二丁目14番5号。電話番号：03-3668-5537。東京メトロ日比谷線人形町駅下車A1番出口 徒歩3分；  
東京メトロ半蔵門線水天宮前駅下車7番出口徒歩1分 都営地下鉄浅草線人形町駅A5出口徒歩6分